



リニア！開業見通せず！

10月29日、名古屋市で開かれた記者会見で、J R東海の丹羽俊介社長は、リニア中央新幹線（東京・品川―名古屋間）の総工費が11兆円に達する見通しであることを明らかにしました。これは当初計画の約2倍に相当します。

5兆円→7兆円⇒11兆円！

丹羽社長は「工事を進める中で、近年の物価高騰や難工事対応による増額要素が判明した」と説明。合理的な要素を精査した結果、再度の上方修正に踏み切ったとしています。総工費の見直しは今回で2回目となり、2021年4月に7兆円へ引き上げた後、さらに4兆円上乗せされ11兆円になりました。

J R東海株が急落！

10月30日、J R東海の株価は急落し、終値は前日比341円安の3,793円（－8.25%）となりました。この株価急落は、下落率ランキングで3位に入り、リニア中央新幹線の開業見通しの不透明さと総工費の膨張が市場に大きな不安を与えた形になりました。

サービック労組の見解はいかに！

関西新幹線サービックは、J R東海の100%出資の子会社です。このリニア問題やJ R東海の経営に無関係ではありません。J S労は、東海労連の加盟単組として、大井川流域における湧水問題、名古屋地区での軟弱地盤問題、残土等による自然破壊や、経営圧迫による社員への責任転換を許さない立場からリニア建設には反対しています。

一方、サービック労組は、リニア建設についての方針は賛成の立場です。

今回、J R東海が明らかにした東京・品川区リニア工事現場近くでの道路の隆起による作業中断、そして、リニア工事費用倍増、何より開業に見通しがつかないこと等について、組合員のために見解を発するべきです。

仮置き開業としている2035年まで10年！無責任では済みませんよ！